

<第三次取りまとめでの記載>

- ・この側面の資質・能力は、人権に関する知的理解に深く関わるものである。
- ・人権教育により身に付けるべき知識は、自他の人権を尊重したり人権問題を解決したりする上で具体的に役立つ知識でもなければならぬ。例えば、自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務などの諸概念についての知識、人権の歴史や現状についての知識、国内法や国際法等々に関する知識、自他の人権を擁護し人権侵害を予防したり解決したりするために必要な実践的知識等が含まれるであろう。このように多面的、具体的かつ実践的であるところにその特徴がある。

<列記されている要素>

- ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
- ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ・憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識
- ・自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- ・人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 等

<指標の事例>

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ・世界には様々な人権問題があることを知っていますか。
- ・あなたはどんな人権問題があることを知っていますか。
- ・「子どもの権利条約」の権利を二つ以上知っている
- ・同和問題について知っていますか。
- ・全ての人大切にされなくてはならない。
- ・外国のことを学ぶことは役に立つ。
- ・様々な考えをもつ人々と暮らしていることを理解しています。
- ・友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。
- ・人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている。

<第三次取りまとめでの記載>

- この側面の資質・能力は、技能的側面の資質・能力と同様に、人権感覚に深く関わるものである。
- 人権教育が育成を目指す価値や態度には、人間の尊厳の尊重、自他の人権の尊重、多様性に対する肯定的評価、責任感、正義や自由の実現 のために活動しようとする意欲などが含まれる。人権に関する知識や人権擁護に必要な諸技能を人権実現のための実践行動に結びつけるためには、このような価値や態度の育成が不可欠である。こうした価値や態度が育成されるとき、人権感覚が目覚めさせられ、高められることにつながる。

<列記されている要素>

- 自己についての肯定的態度
- 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- 多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度
- 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
- 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
- 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 等

<指標の事例>

- 自分のよいところがわかり、自分のことを大切にしていますか。
- 人権問題を解消するために行動しようと思いますか。
- 正義を守ろうとする気持ちがあります。
- 仲良くなれるよう自分から働きかける。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- よりよい集団づくりに自分から進んで参加しようとしています。
- 差別を許さない態度を身につけています。
- 様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。

＜第三次取りまとめでの記載＞

- ・この側面の資質・能力は、価値的・態度的側面の資質・能力と同様に、人権感覚に深く関わるものである。
- ・人権の本質やその重要性を客観的な知識として知るだけでは、必ずしも人権擁護の実践に十分であるとはいえない。人権に関わる事柄を認知的に捉えるだけでなく、その内容を直感的に感受し、共感的に受けとめ、それを内面化することが求められる。そのような受容や内面化のためには、様々な技能の助けが必要である。人権教育が育成を目指す技能には、コミュニケーション技能、合理的・分析的に思考する技能や偏見や差別を見きわめる技能、その他相違を認めて受容できるための諸技能、協力的・建設的に問題解決に取り組む技能、責任を負う技能などが含まれる。こうした諸技能が人権感覚を鋭敏にする。

＜列記されている要素＞

- ・人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能
- ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- ・能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- ・他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能
- ・人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能
- ・対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能
- ・複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等

＜指標の事例＞

- ・友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・相手の立場に立って物事を考えることがある。
- ・いやなことを言われたりされたりしている人がいたら、助けることができる。
- ・学校内外の活動に参加し、人の役に立った経験がある。
- ・友達の気持ちを考えることができます。
- ・よい集団をつくるため、多くの友達と協力して行動することができます。
- ・自分と異なる価値観を持つ友達に対しても関わるすることができます。